

AI (人工知能) を用いた外来問診システムの導入について

《AI 問診システムについて》

このシステムは、AI が医師に代わって問診を行うサービス。医師の作業負担が軽減され、より患者と向き合うことができると期待されている。

多くの医療機関が抱える問題に医師の長時間労働や患者の長い待ち時間がある。この原因の一つに、非効率なカルテ管理があるとされている。待合室で患者が手書きで記入した問診票の内容を、診察時に医師が口頭で確認して診察を行った後、その結果を再度電子カルテに入力している。

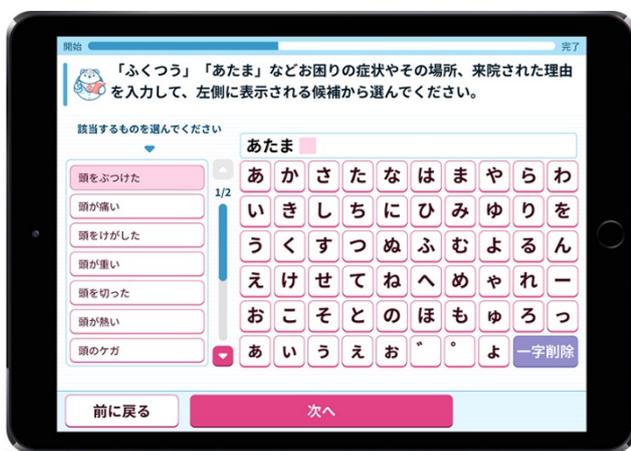
こうした現状について、今回導入するシステムを開発した「Ubie 株式会社」共同代表取締役で、現役の医師でもある阿部吉倫氏は「医師が、電子カルテ入力などの事務作業に忙殺されてしまうため、本来業務である診察に注力できない」と指摘する。

このシステムは、患者がタブレット端末に入力した情報を、適切な専門用語に置き換え、医師のパソコンに表示するソフトウェアである。患者が診察までの待ち時間に年齢、性別、症状を入力すると、約

3500 種類の質問データから AI が最適項目を選び出し、タブレット画面に 20 個前後の質問を表示する。患者は提示される項目を選択し質問に答える。この問診に必要な時間は 3 分ほど。患者が入力した回答は医療用語を用いた文章として、医師のパソコン上に表示される。

現在、全国 100 以上の病院で導入されており「問診にかかる時間が短縮できることで、患者とのコミュニケーションに多くの時間を取れるようになった」などの評価を得ている。

※政府広報誌 Highlighting Japan 記事より引用



待ち時間に、いくつか質問に答えるだけ。
これまで以上にスムーズに、医師に症状を伝えられます

従来の診察方法
先生の時間がなく、あまり診てもらえない

この問診を使用すると
先生は事前に症状が分かる。充実した診察に！